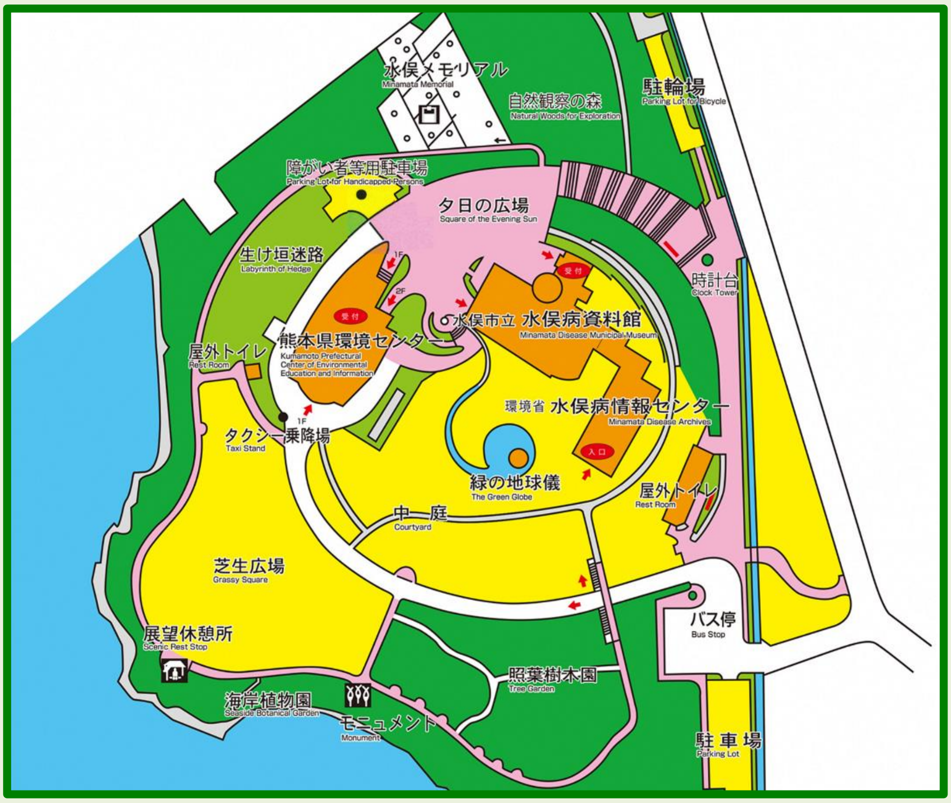
熊 本 県 環 境 セ ン タ ー
環境教育指導者派遣制度のご案内

（令和8年（2026年）5月発行）

熊本県環境センター

熊本県環境センター

見 取 図



あ　い　さ　つ

「熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度」は、県内の市町村、学校、地域団体等が実施する環境学習の取り組みを支援するため、環境センターから専門的な知識と経験を有する指導者を派遣する制度です。県民の皆さまが身近な場所で質の高い環境教育に触れられるよう、長年にわたり多くの場面で活用いただいています。

近年、気候変動の深刻化、生物多様性の損失、資源循環の停滞など、私たちの生活を取り巻く環境課題は複雑化し、地域社会の持続可能性が問われています。熊本県においても、豪雨災害や猛暑など、環境変化の影響を実感する機会が増えており、環境に関する正しい理解と主体的な行動を促す「環境教育」の重要性は、これまで以上に高まっています。

本制度では、環境保全、気候変動対策、自然観察、資源循環など、多様な分野で活躍する専門家の皆さまの協力のもと、地域の実情に応じた学習機会を提供しています。子どもたちをはじめ、県民の皆さまが環境について主体的に考え、行動するきっかけとなることを期待しています。

今後も、県民・地域・行政が連携し、持続可能で環境にやさしい熊本の実現に向けて取り組みを進めてまいります。本制度を積極的にご活用いただき、地域の環境教育のさらなる推進にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

令和８年（２０２６年）５月

熊本県環境センター館長　山元　恵

目　　次

あいさつ、目次・・・　１
環境教育指導者派遣制度の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
環境教育指導者派遣制度の仕組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
環境教育指導者一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
環境教育指導者の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度の概要

１　環境教育指導者派遣制度とは

環境教育を推進するために、県内で実施される環境学習会や自然観察会などを対象として環境センターに登録された指導者を派遣する制度です。

２　派遣の対象となる講演会、学習会等

（１）対象となる主催者

市町村、公民館、小・中・高校、各種学校、自治会、ＰＴＡ、住民団体など

（２）対象となる講演会、学習会、観察会等の内容

①　講演会、学習会

・地球環境問題や省エネルギー・省資源など環境の保全に関するもの

・野生動植物の保護など自然環境に関するもの

・水質の浄化やごみとリサイクルなど生活環境の維持や改善に関するもの

②　観察会（フィールドワーク）

・動物や植物及びこれら相互のつながりや環境との関わりなどに関するもの

・大気や水象・地象など環境に係わる観測や測定に関するもの

（３）受講者数

概ね３０人以上が参加する講演会、学習会、観察会等を派遣対象とします。

３　申請の手続き

（１）環境教育指導者派遣のための申請

申請に先立ち、まず電話でどのような内容で派遣を希望するのかお知らせください。その後、実施予定日の４週間前までに申請書（様式第１号）に必要事項を記入し、講演会等の日程のわかるものを添えて、熊本県環境センターに提出してください。

（２）環境教育指導者派遣決定通知

申請書を審査し、適当と認めたときは決定書（様式第２号）により通知します。

（３）実施報告

主催者は、講演会、学習会などを実施した日から１０日以内に、報告書（様式第３号）を熊本県環境センターに提出してください。

４　環境教育指導者への謝金など

環境教育指導者への謝金、旅費については熊本県環境センターが負担します。

５　申請及び問い合わせ先

熊本県環境センター

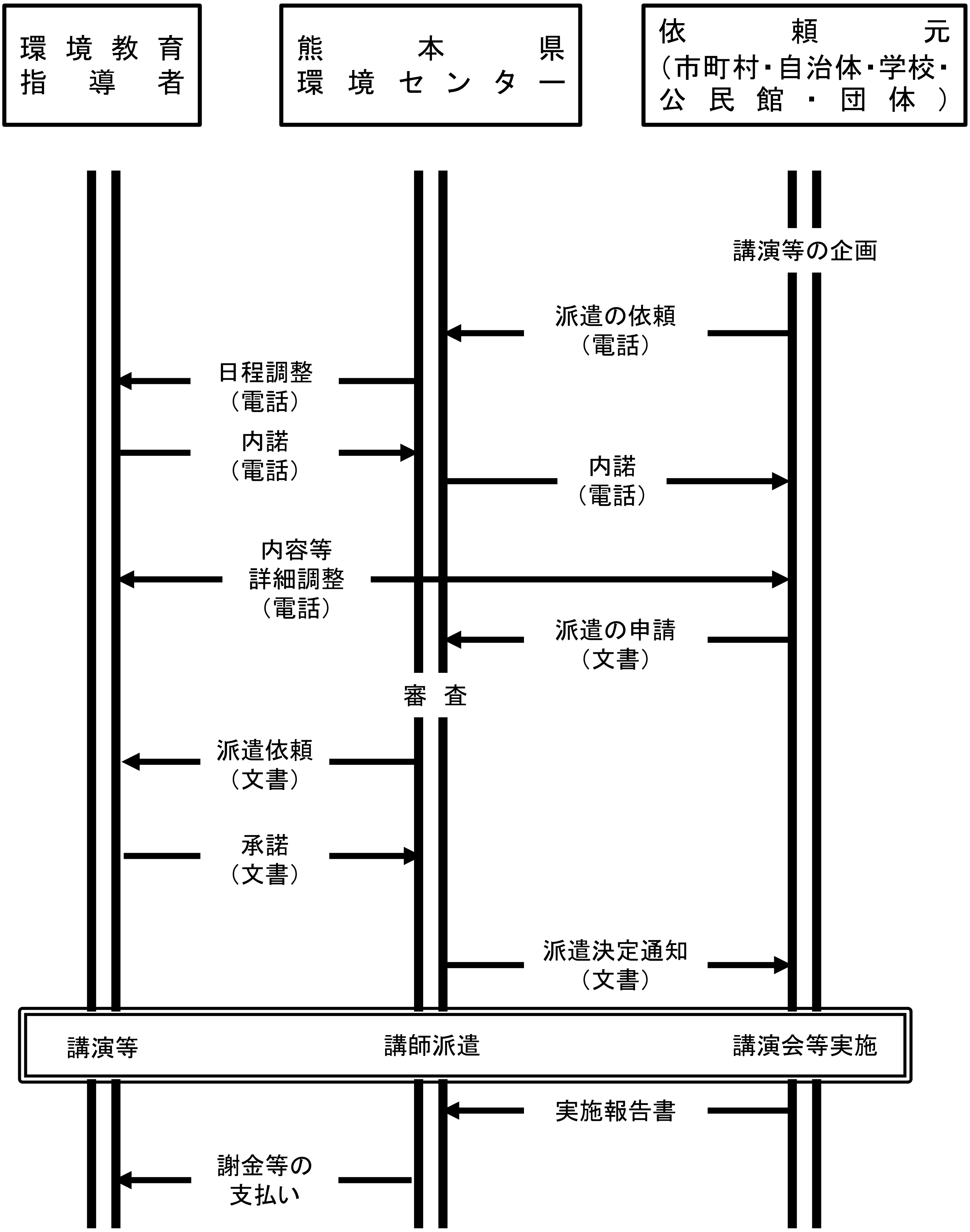
〒867-0055　水俣市明神町 55 番 1 号

電話　0966−62−2000

E-mail　kankyo-center@dance.ocn.ne.jp

HP　https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/50/51621.html

環境指導者派遣制度の仕組み



熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項

（目　的）

第１条　熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項（以下「要項」という。）は、市町村、公民館、学校、自治体等が実施する環境に関する講演会、学習会、自然観察会（フィールドワーク）など（以下「講演会等」という。）に講師もしくは野外学習指導者（以下「指導者」という。）を派遣することにより、地域における快適な環境の保全及び創造に関する知識の普及や意識の高揚を図るとともに、環境教育の推進に資することを目的とする。

（委　嘱）

第２条　熊本県環境センター所長（以下「所長」という。）は、環境保全、自然環境、生活環境に関し、知識や経験を有する者を指導者に委嘱する。

（指導者の職務）

第３条　指導者は、この要項に基づき派遣された講演会等を通じて、快適な環境の保全及び創造に関する知識の普及と意識の高揚に努めなければならない。

（指導者の任期）

第４条　指導者の任期は原則３年とし、再任を妨げない。ただし、所長は、指導者が次のいずれかに該当するときは、当該指導者を解任することができる。

(1)　辞任を申し出たとき

(2)　死亡し、又は失そうの宣告を受けたとき

(3)　その他講演会等に派遣することが困難な状況にあり、その状況が今後も継続すると認められるとき

２　所長は、前項ただし書第１号又は第３号の規定により指導者を解任した場合、当該指導者に対し理由を付してその旨通知するものとする。

（派遣対象）

第５条　市町村、小・中・高等学校その他各種学校、自治会、ＰＴＡ又は住民団体等が主催する講演会等で次に掲げる条件を満たすもののうち所長が第１条の目的に適合すると認めたものに指導者を派遣する。

(1)　熊本県において開催されるもの

(2)　熊本県民又は熊本県に勤務・通学するものを対象に開催されるもの

(3)　受講者が概ね３０人以上のもの

(4)　政治、宗教及び営利を目的としないもの

２　所長は、特に必要と認めるときは、前項各号の条件にかかわらず、講演会等に指導者を派遣することができる。

（派遣申請）

第６条　指導者の派遣を希望する講演会等の申請者（以下「申請者」という。）は、実施予定日の４週間前までに環境教育指導者派遣申請書（様式第１号）により講演会等の日程のわかるものを添えて所長に申請するものとする。

（派遣の決定）

第７条　所長は、前条の申請書を審査のうえ適当と認めたときは、環境教育指導者派遣実施決定書（様式第２号）により申請者に通知するものとする。

（実施報告書）

第８条　申請者は、講演会等を実施した日から１０日以内に、その概要を環境教育指導者派遣制

度実施報告書（様式第３号）により所長に報告しなければならない。

（謝金等）

第９条　熊本県環境センターは、環境教育指導者派遣制度事務取扱要領により、予算の範囲内で指導者に謝金及び旅費を支給する。なお、謝金は第６条の申請に基づく金額を支給上限とする。

付則

この要項は、平成　７年（１９９５年）　７月　７日から施行する。

付則

この要項は、平成１４年（２００２年）　４月　１日から施行する。

付則

この要項は、平成２０年（２００８年）１０月　１日から施行する。

付則

この要項は、平成２９年（２０１７年）　１月２４日から施行する。

付則

この要項は、令和２年（２０２０年）　４月　１日から施行する。

付則

この要項は、令和３年（２０２１年）　４月　１日から施行する。

付則

この要項は、令和７年（２０２５年）　４月　１日から施行する。

（様式第１号）

環境教育指導者派遣申請書

令和　　年　　月　　日

熊本県環境センター所長　様

申請者住所（〒　　　　　）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申請者名称＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号（　　　　　　　　　　　　）

ＦＡＸ（　　　　　　　　　　　　）

E-mail（　　　　　　　　　　　　）

※メールアドレスが記載してある場合は、実施決定書はメールでの送信を基本とします。

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項第６条の規定に基づき、次のとおり指導者の派遣を申請します。

派遣希望日時	令和　　年　　月　　日（　）（　：　～　：　） 屋内（　　時間　　分）　屋外（　　時間　　分）
講演会等の名称	
派遣希望場所（住所、会場名等）	電話番号：
受講予定者数	人
希望する講演（活動）内容（具体的に書いてください） （題名等） （内　容）	

（様式第２号）

環境教育指導者派遣実施決定書

環セ第　　　号
令和　　年　　月　　日

様

熊本県環境センター所長

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項第７条の規定に基づき、次のとおり行うこととします。

申　請　者	
実　施　日　時	令和　　年　　月　　日（　　）　（　：　～　：　） 屋内（　　時間　　分）　屋外（　　時間　　分）
派遣指導者名 （連　絡　先）	
講演会等の名称	
実　施　場　所 （住所、会場名等）	
受　講　者　数	
講演（活動）内容 （題名等） （内容）	

注意　１　会場の予約、行事の進行及び参加者の安全管理については、主催者が責任を持って行ってください。
２　実施にあたっては、事前に必ず指導者と充分な打合せを行ってください。
また、指導者の個人情報の管理について注意してください。
３　実施にあたっては、熊本県環境センターの「環境教育指導者派遣制度」を利用していることを何らかの形で紹介してください。
４　当該日時の指導者に対する一定時間内の謝金及び旅費については、環境センターから支給します。
５　事業終了後１０日以内に所定の実施報告書を提出してください。

（様式第３号）

環境教育指導者派遣制度実施報告書

令和　　年　　月　　日

熊本県環境センター所長　様

申請者住所（〒　　　　）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申請者名称＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号　（　　　　　　　　　　　　　）

ＦＡＸ　（　　　　　　　　　　　　　）

E-mail　（　　　　　　　　　　　　　）

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項第８条の規定に基づき、次のとおり報告します。

実施日時	令和　　年　　月　　日（　）（　　：　　～　　：　　） 屋内（　　時間　　分）　屋外（　　時間　　分）
派遣指導者名	
講演会等の名称	
実施場所 （住所、会場名等）	電話番号：
受講者数	人
講演（活動）内容 （題名等） （内　容）	
感想など（実施状況の写真を添付してください。）	

環境教育指導者一覧表

（順不同、敬称略）

No.	分野		名前
1	環境保全	水環境科学・バイオマス利用	篠原 亮太
2		水環境保全	小島 徹
3		水環境保全・水環境工学	金子 好雄
4		水環境保全・地下水	川越 保徳
5		水環境保全・地下水	田中 伸廣
6		水環境保全・地下水	村上 茂人
7		水環境保全・考古化学	中田 晴彦
8		環境分析化学・水処理	古賀 実
9	自然環境	地質学	長谷 義隆
10		大気環境科学	張 代洲
11	生活環境	生活環境全般	宮原 美智子
12		廃棄物利活用・バイオマス利用	鳥居 修一
13		資源循環	渡邊 輝樹
14		リサイクル手芸	髙田 敦子
15		建築構造・材料	林 美貴
16		消費者教育・食生活学	岩下 紀子
17		消費者教育	田北 真美
18		SDGs・気候変動・防災	神田 みゆき
19		気象・防災	吉良 正子
20	植物	植物全般	山下 桂造
21		植物全般・自然観察	前田 哲弥
22		植物全般・森林管理	城戸 美智子
23		植物プランクトン	一宮 睦雄
24		阿蘇地域の植物	瀬井 純雄
25	動植物	植物全般・哺乳類	天野 守哉

No.	分野		名前
26	動物	動物全般	逸見 泰久
27		哺乳類・両生類・爬虫類	坂本 真理子
28		哺乳類	坂田 拓司
29		鳥類	坂梨 仁彦
30		貝類	松本 達也
31		水生生物	高松 安国
32		陸・淡水産貝類	西野 宏
33		海洋生物	堤 裕昭
34		海洋生物	森 敬介
35		生態・水産・保全	山田 勝雅
36		昆虫	寺﨑 昭典
37	自然観察 その他	きのこ	鈴木 敏雄
38		水生生物観察・水環境	小林 修
39		自然観察全般	小田 文弘
40		自然観察全般	中田 裕一
41		自然観察全般	藤吉 勇治
42		草原での自然観察と学習	木部 直美
43		阿蘇の草原学習	市原 啓吉
44		里地・里山の自然体験	幸山 昌生
45		シェアリングネイチャー	福本 壽太郎
46		天体観測	橋本 建司
47		天体観測	浅田 晃司
48		天体観測とプラネタリウム	稲葉 洋一
49		天体観測とプラネタリウム	吉田 光一郎

環境教育指導者
紹　　介

環境保全（水環境科学・バイオマス利用）

しの　はら　りょう　た
No.01 篠　原　亮　太

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の水」「地球環境問題」
「廃棄物の現状」
「安全でおいしい野菜」

昭和２２年生まれ　　熊本市在住
現　　在　　熊本県環境センター名誉館長　熊本県立大学名誉教授
　　　　　　宇城市環境審議会会長　　　　熊本市環境審議会会長
　　　　　　水俣市環境審議会会長　　　　熊本市環境影響審査会会長

主な研究課題は、水環境における化学物質の挙動と水の高度処理である。また、地球環境問題をはじめ、現代の抱える環境問題を環境保全の視点から解析する教育研究を行っている。社会活動の一環として、新エネルギー、バイオマス利活用を中心に地域での環境保全活動の支援も進めている。

環境保全（水環境保全）

こ　じま　　　とおる
No.02 小　島　　　徹

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇が生んだ地下水のメカニズム」
「水循環と私たちの生活」

昭和３３年生まれ　　熊本市在住
現　　在　　(公財)肥後の水とみどりの愛護基金啓発事業部長
　　　　　　くまもと「水」検定1級、くまもと水守（呼称：水源涵養水守）

熊本地域の地下水涵養のため、水源涵養林「阿蘇大観の森」の植樹と下草刈り、「阿蘇水掛の棚田」での稲作を通じた水田湛水事業、湧水の現況や水質調査、八代海沿岸域でのアマモ場再生などに取り組んでいる。環境保全活動の啓発を目的としたSNSによる情報発信に注力し、教育旅行の講師を勤めている。

環境保全（水環境保全・水環境工学）

かね　こ　よし　お
No.03 金　子　好　雄

〈講演会・学習会テーマ例〉
「豊かな生態系としての水環境」
「川の水環境調査」
「多自然川づくりのすすめ」

昭和２６年生まれ　　熊本市在住
　　　　　　元東海大学産業工学部環境保全学科　准教授
現　　在　　NPO法人白川流域リバーネットワーク代表理事
　　　　　　江津湖研究会副会長
　　　　　　(一社)地域共生・資源活用協会理事

川、湖沼、地下水といった水環境の保全・復元に関する調査研究や、生活排水、産業排水などの生物学的処理に関する調査研究を行っている。
平成5年に第14回熊日出版文化賞受賞、平成15年に(社)日本水環境学会水環境文化賞受賞、平成17年に日本河川協会河川功労者賞受賞。
著書に「熊本発地球環境読本(共著)」、「くまもと水防人(さきもり)物語(共著)」等がある。

環境保全（水環境保全・地下水）

かわ　ごし　やす　のり

No.04 川 越 保 徳

〈講演会・学習会テーマ例〉
「水のおいしさについて」
「熊本の地下水水質について」
「微生物を利用する水処理について」

昭和６１年　宇部興産(株)宇部研究所研究員
平成３年　大阪市立環境科学研究所研究員
平成１５年　熊本大学工学部助教授
平成２３年　熊本大学大学院教授
現　　在　熊本大学　くまもと水循環・減災研究教育センター 教授
日本水環境学会　九州・沖縄支部長
日本水処理生物学会　編集委員、日本生物工学会会員，土木学会会員

大学では衛生工学を専攻し，微生物による難分解性物質の分解に関する研究で博士学位を取得。民間企業にてSODという酵素を医薬品にすべく基礎研究に従事し，前職場の大阪市立環境科学研究所では，海も川も，きれいも汚いも関係なく，色んな“水”に含まれる微量有害物質の分析と除去の研究に関わった。熊大では，熊本が誇る地下水のおいしさの研究に始まり，水質の保全に関する研究に力を注いでいる。

環境保全（水環境保全・地下水）

た　なか　のぶ　ひろ

No.05 田 中 伸 廣

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の地下水・湧水巡り」
「阿蘇の恵み　くまもとの地下水」

昭和２３年生まれ　熊本市在住
平成２５年　熊本県退職
現　　在　熊本県環境審議会水保全部会特別委員
元熊本県地下水保全アドバイザー
阿蘇火山博物館学術専門委員

熊本県庁に入庁後、50年以上に渡り地下水の開発と保全の調査、研究、水質汚濁防止法に基づく公害防止、河川や海域の水環境監視等の環境・公害行政に従事。専門の水文地質の視点から、熊本の地下水をやさしく解説。
著書に、一の宮町史「阿蘇山と水」がある。

環境保全（水環境保全・地下水）

むら　かみ　しげ　と

No.06 村 上 茂 人

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本地震とわき水」
「熊本のわき水とその歴史」
「水質調査について」

現　　在　環境省環境カウンセラー
環境教育インストラクター

学校教育の中で「わき水を未来に残したい」という思いから、熊本県の水環境を調べ始める。現在、熊本市や益城町を中心に水質調査やわき水の歴史を調べたり、熊本地震とわき水の関係を調べたりしている。

環境保全（水環境保全・考古化学）

なか　た　はる　ひこ

No.07 中 田 晴 彦

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の地下水保全と人間活動」
「江津湖とマイクロプラスチック」
「考古試料と化学分析」

平成１０年　熊本大学理学部　助手
平成１９年　熊本大学大学院自然科学研究科　准教授
現　　在　熊本大学大学院先端科学研究部　准教授

環境試料に含まれる有害化学物質やマイクロプラスチックの分析法や環境動態の把握に関する調査研究を行っている。また、微量分析技術を考古試料に応用した歴史と化学融合型の研究も展開している。

環境保全（環境分析化学・水処理）

No.08 古賀　実（こが　みのる）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「環境を測る」
「化学物質の毒性評価」

昭和４７年～昭和５４年　北九州市環境衛生研究所
昭和５４年～平成９年　産業医科大学講師、助教授、
　共同利用研究センター副センター長
昭和６２年～平成元年　米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校　博士研究員
平成９年～平成２６年　熊本県立大学
　（助教授、教授、学生部長、副学長、学長）
平成１３年～平成１４年　英国プリマス大学　客員教授
現　在　水俣環境アカデミア所長（平成２６年～）
　熊本県立大学名誉教授

科学技術の進展に伴い多種類の化学物質が新たに製造され、我々の日々の生活の中で広く使われ環境中に拡散している。その中には環境中に長期間残留し、生態系に影響を及ぼす化学物質も知られている。環境中微量化学物質の分析法、環境動態、毒性評価方法などについて解説する。

自然環境（地質学）

No.09 長谷義隆（はせ　よしたか）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の大地の成り立ちを知る」
「自然環境の変遷を探る」

昭和１６年生まれ　熊本市在住
元熊本大学大学院自然科学研究科教授

地球科学、特に層序学、植物化石に基づく古環境解析が専門。九州の中部、南部の新生代後期の地史を整理。九州に産する植物化石を基にして古植生、古気候を把握し環境変遷を明らかにする。著書に「日本の地質9、九州地方」（分担）、「海にうかぶ博物館　天草ジオパーク」（編著）など。

自然環境（大気環境科学）

No.10 張　代洲（ちょう　だいしゅう）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の大気環境」
「東アジアの大気汚染」
「黄砂とその環境への働き」

昭和４０年生まれ　宇土市在住
平成　８年　中国北京大学研究助手
平成１１年　熊本県立大学専任講師
現　在　熊本県立大学教授

東アジア地域の大気環境問題を取り上げ、気象学や大気汚染及び気候変動などの立場から大気環境に関する研究教育を行っている。主な研究課題は、大気汚染物質の変質過程とその環境影響である。平成17年日本エアロゾル学会奨励賞受賞。

生活環境（生活環境全般）

No.11 宮原美智子（みやはら　みちこ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「地球温暖化と私たちの暮らし」
「地球温暖化と異常気象」「地球のもしもに備える」
「世界・日本の地球温暖化の現状と暮らし」
「地球と子どもたちの未来のためにエシカルなくらしをしよう
「熊本とモンゴルから地球の未来を考える」

昭和３３年生まれ　熊本市在住
昭和５６年　熊本県公立学校教員（昭和６１年まで）
平成１０年　財団法人省エネルギーセンター主催第一回「わが家の省エネ実践コンクール」
　優秀賞受賞
現　在　NPO法人九州環境サポートセンター　理事
　一般財団法人くまもと未来創造基金　理事
　公益財団法人　熊本上下水道サービス公社　理事
　公益財団法人　肥後の水と緑の愛護基金　評議員
　クライメート・リアリティ・リーダー
　「熊本×モンゴルプロジェクト」担当　暮らし手仕事まあむ代表
　公益財団法人オイスカ　参与

暮らしのなかでの省エネ実践やエコクッキング、環境教育を通して、具体的な環境のやさしい暮らし方を提案している。「どんぐりの森」づくりやモンゴルなど海外での植林活動を行っている。モンゴルと熊本の幼稚園交流や阿蘇の小中学校の草原交流を通して、環境保全について学ぶ機会を作っている。環境と暮らしのバランスを持続的に維持していくための仕組みづくりについて、提案・アドバイスを行っている。

生活環境（廃棄物利活用・バイオマス利用）

No.12 鳥居修一（とりい しゅういち）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有機系廃棄物を含むバイオマスを用いた再生可能性エネルギー創出」
「燃焼灰の有効利用について（人工漁礁への応用。路盤材への活用）」

平成　５年　鹿児島大学工学部助教授
平成１５年　熊本大学工学部教授
現　　在　久留米工業大学機械システム工学科特別教授、熊本大学大学院先端科学部教授
National Institute of Technology Karnataka (India) 客員教授
ALVA's Institute of Engineering and Technology (India) 客員教授
REVA University (India) 客員教授
Vel Tech Institute (India)　非常勤教授
Southern Taiwan University of Science and Technology (Taiwan)　客員教授
一般社団法人九州脱炭素都市創出ユニット　副代表理事
所属団体　日本機械学会、日本伝熱学会、可視化情報学会、化学工学会、空気調和衛生工学会、日本エネルギー学会

大学では核エネルギーを専攻し，核燃料棒周りの熱流動特性に関する研究で博士学位を取得。米国科学財団の支援でミシガン大学で連続精錬システムに関する基礎研究に従事し，鹿児島大学工学部機械工学科では，各種回転機器や燃料機器の熱と流動に関して数値解析で解明する研究に関わった。熊本大学では，畜産系廃棄物等からの再生可能エネルギー創出のための機器の開発及びその熱流動特性に関する研究に従事している。

生活環境（資源循環）

No.13 渡邊輝樹（わたなべ てるき）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「家電リサイクル、小型家電リサイクルの現状」
「金属・プラスチックのリサイクルのしくみ」
「みなまたの環境への取り組み」

昭和３９年生まれ　熊本市在住
現　　在　（元）みなまたエコタウン協議会会長
（元）アクトビーリサイクリング（株）専務取締役
環境管理士
アスベスト診断士

家電リサイクル事業を中心として、リサイクルや資源循環に20年以上携わっており、中国での勤務も経験している。ビジネス等に関係した実例を紹介しながら、環境リサイクルの“いま”を伝えたい。

生活環境（リサイクル手芸）

No.14 髙田敦子（たかた あつこ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「簡単・楽しい・リメイク遊び」
裂き織り・布ぞうり・草木染
着古しニットや米袋もおしゃれに変身！

昭和３２年生まれ　熊本市在住
手織り・裂き織り教室　織好SUN主宰
一般財団法人　生涯学習開発財団・認定
日本染織協会　公認インストラクター
ＮＨＫ熊本文化センター講師

現代の便利で快適な暮らしが不自然であることを自覚し、少ないもので豊かに暮らしていた先人の智恵に学びながら、自然の循環をせき止めない人間本来の生き方を目指す「意識的不便主義」を提唱している。

生活環境（建築構造・材料）

No.15 林美貴（はやし みき）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「自然環境と建築材料の可能性」
「建築と自然環境」
「わたしたちと建築と自然環境」

昭和２７年生まれ　熊本市在住
昭和５０年　熊本工業大学建築学科助手
平成１２年　崇城大学工学部建築学科講師
平成２９年　崇城大学工学部建築学科准教授
現　　在　日本建築学会九州支部構造委員会委員
熊本県耐震判定委員
熊本市行政区画等審議会委員　熊本県収用委員会委員
熊本市公共事業再評価監視委員会委員　熊本市入札監視委員会委員
上天草市入札監視委員会委員長
（一社）日本建築学会会員　（公社）日本コンクリート工学会会員　（公社）地盤工学会
（公社）日本建築積算協会会員　建築コスト管理士
（公社）日本建築積算協会九州支部相談役

大学では、「建築構造力学」や「実務建築学実習・建築積算」「建築基礎構造」「建築構造・材料実験」を担当していた。研究活動においては、建築材料の県産材活用のより高い効率化を目指した実験研究や、環境負荷の小さい材料による地盤改良土壌固化材の開発に関する実験研究を行っている。

生活環境（消費者教育・食生活学）

No.16 岩（いわ）下（した）紀（のり）子（こ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「学校現場における消費者教育」
「SDGsと消費者市民社会」
「これからの社会に必要な消費者の力
～私たちの食生活と環境～」

平成元年～平成３１年　　熊本県高等学校勤務
現　　　在　　尚絅大学短期大学部総合生活学科教授
　　　　　　　熊本家庭科消費者教育研究会会長

「何を選んでどのように食べるか」等、いつも考えていることですが、その意思決定をどのようにするかで、自分の健康や命だけでなく、社会も大きく変わります。持続可能な社会を形成していくために、私たちはどのような力をつける必要があるか、食生活における具体的な事例を通しながら考えましょう。

生活環境（消費者教育）

No.17 田（た）北（きた）真（ま）美（み）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「生ゴミリサイクル　ダンボールコンポスト」
「体からみた環境と食育」
「竹を使った工作」体験
野外炊飯、石臼体験、ダッチオーブンなど

昭和４５年生まれ　　上天草市在住
現　　　在　　日本カイロプラクティック師協会準会員
　　　　　　　熊本県地球温暖化防止活動推進員
　　　　　　　熊本県育木インストラクター
　　　　　　　熊本大学木育推進員上級
　　　　　　　ダンボールコンポストアドバイザー

ダンボールを使った生ごみリサイクル「ダンボールコンポスト」でごみの減量とコンポストで作った濃縮堆肥での土作りで循環を学ぶ。挽石臼を使って、米・大豆などを粉にする昔の道具体験とエネルギーを使わないことで、今のエネルギーの大切さを知ってもらう。

生活環境（SDGs・気候変動・防災）

No.18 神（かん）田（だ）みゆき

〈講演会・学習会テーマ例〉
「SDGs達成のために私たちにできること」
「気候変動について考える」
「ESD・SDGs教育について」

略　　歴　　中学校教諭（理科・保体）
　　　　　　高等学校講師（化学・地学・保体）
　　　　　　熊本市教育委員会 社会教育主事
　　　　　　環境省 環境カウンセラー、環境教育インストラクター
　　　　　　ESDサポートスペシャリスト
　　　　　　SDGs各種カードゲーム公認ファシリテーター
　　　　　　防災士
　　　　　　熊本県くまもと環境教育賞受賞、くまもとSDGs AWARD（未来づくり部門）入賞
現　　在　　一般社団法人Universe Quest　代表理事
　　　　　　NPO法人SDGs Association 熊本　代表理事

元中学校理科教諭。熊本市教育委員会の社会教育主事を経て、学校・地域・行政・企業をつなぐ実践を展開。2017年よりSDGsの普及・実践に取り組み、延べ4万人以上に講演・研修を実施。SDGs、気候変動、防災、人権教育をテーマに活動している。

生活環境（気象・防災）

No.19 吉（き）良（ら）正（まさ）子（こ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「こどもたちのための実験を通したお天気教室」
「おとなのお天気教室」
「地球温暖化の現状と私たちにできる対策」

現　　　在　　熊本壺溪塾学園　講師
　　　　　　　日本気象予報士会　会員
　　　　　　　ＮＰＯ法人　防災ＷＥＳＴ　会員

「気温」「気圧」「水蒸気」が織りなす気象の仕組みについて考えます。
気象がどのような条件によってつくられ、変化していくのかを実験を交えて解説し、気象に興味・関心を持っていただくきっかけをつくれたらいいなと思っています。
気象情報、天気予報の受け取り方や、地球温暖化についても一緒に考えましょう。

植物
（植物全般）

やま した けい ぞう
No.20 山下 桂造

〈講演会・学習会テーマ例〉
「校庭の植物観察」
「山野の植物観察」

現　　在　玉名市議会議員
熊本県希少野生動植物検討委員会調査員
熊本記念植物採集会理事
野生生物研究会会員
小岱山自然観察会主催者

平成20年より小岱山で自然観察会を毎月おこなっています。月ごとに変化していく自然を楽しみながら、自然について考えを深めています。何がそこにあるかではなく、なぜそこにそれがあるかを考える面白さを知りました。

植物
（植物全般・自然観察）

まえ だ てつ や
No.21 前田 哲弥

〈講演会・学習会テーマ例〉
「身近な植物観察会」
「水辺の植物観察会」

現　　在　博物館ネットワークセンター博物館活動嘱託員（植物）
日本植物分類学会会員
自然観察指導員熊本県連絡会会員
すげの会会員

普段は博物館施設で、植物に関する調査・研究、展示、講座、体験学習を担当。身近な植物をとおして、自然を知り、親しむ機会づくりを目指します。

植物
（植物全般・森林管理）

き ど み ち こ
No.22 城戸 美智子

〈講演会・学習会テーマ例〉
「森林保全と管理」
「生物多様性」
「シカによる植生被害の現状と回復への取組」

現　　在　（株）九州自然環境研究所　主任研究員
熊本野生生物研究会　事務局員
（公財）阿蘇グリーンストック　野焼き支援ボランティア員
林業技士（森林環境部門）
技術士（環境部門）

普段は自然環境調査や森林モニタリング調査を行っており、特に、ニホンジカによる植生被害の現状と対策について力を入れている。
また、野焼き支援ボランティア員として阿蘇の草原維持に取り組んでいる。

植物
（植物プランクトン）

いち の みや むつ お
No.23 一宮 睦雄

〈講演会・学習会テーマ例〉
「植物プランクトンの生態」
「赤潮プランクトンの生活史」
「スイゼンジノリの保全」

昭和５０年生まれ　　熊本市在住
平成２３年　　熊本県立大学環境共生学部講師
平成２８年　　熊本県立大学環境共生学部准教授
令和２年～　　熊本県立大学環境共生学部教授
現　　在　日本海洋学会会員
日本プランクトン学会会員
日本藻類学会会員
不知火海・球磨川流域圏学会会員

主に顕微鏡観察による、植物プランクトン（微細藻類）の生態や生活史に関する研究を行っている。有明海、八代海を含む九州周辺の沿岸域、親潮・黒潮などの外洋域、またスイゼンジノリが生育する淡水域で研究を行っている。

植物（阿蘇地域の植物）

No.24 瀬 井 純 雄（せ い すみ お）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の自然」
「阿蘇の草原植物の現状と草原再生」
「身近な植物を観察しよう」

昭和３２年生まれ　　阿蘇郡南阿蘇村在住
現　　　在　　南小国町立中原小学校校長退職
　　　　　　　認定ＮＰＯ法人阿蘇花野協会　専務理事
　　　　　　　熊本県希少野生動植物検討会委員（植物）
　　　　　　　日本植物分類学会 学会賞 受賞（2025年度）

阿蘇郡市内の小中学校で教鞭を取るかたわら、阿蘇の草原植物、特に大陸系遺存植物の分布や生態を研究。県の希少野生動植物調査、環境省絶滅危惧植物調査では阿蘇地域の植物を担当。全国に先駆けた熊本県希少野生動植物保護条例制定(1990年)に尽力。阿蘇の生物多様性豊かな草原(花野)27haをナショナル・トラスト活動によって保全している。

動植物（植物全般・哺乳類）

No.25 天 野 守 哉（あま の もり や）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「無田湿原の植物」
「水俣芦北地域の植物」
「熊本県の哺乳類」

昭和３８年生まれ　　熊本市西区在住
令和７年３月　熊本県立高等学校退職
現　　　在　　水俣芦北自然観察会会長
　　　　　　　熊本野生生物研究会事務局長
　　　　　　　熊本記念植物採集会理事
　　　　　　　熊本県希少野生動植物検討委員会調査員（哺乳類）
　　　　　　　熊本県カモシカ保護指導委員

水俣芦北自然観察会の活動を行う中で、無田湿原を始めとした水俣芦北地域の植物を観察しています。また、熊本野生生物研究会の活動を通して、県内の哺乳類の調査・研究を行っています。特に絶滅の可能性がある九州山地のカモシカの保全に取り組んでいます。

動物（動物全般）

No.26 逸 見 泰 久（へん み やす ひさ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有明海・八代海の生物多様性」
「レッドデータブック」
「水産資源の保全と持続的利用」

昭和３３年生まれ　　菊池郡（大津町）在住
平成１０年　　熊本大学理学部合津臨海実験所講師
現　　　在　　熊本大学名誉教授
　　　　　　　熊本県希少野生動植物検討委員
　　　　　　　環境省モニタリングサイト１０００委員
　　　　　　　上天草市環境審議会会長

専門は、干潟・浅海を中心とした沿岸生態学。研究課題は、「底生動物の生活史および行動生態」で、特に甲殻類や貝類を対象とする。著書「干潟の絶滅危惧動物図鑑」、「豊穣の海・有明海の現状と課題」、「肥後ハマグリの資源管理とブランド化」（共著）

動物（哺乳類・両生類・爬虫類）

No.27 坂 本 真理子（さか もと ま り こ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「水田と人とカエルたち」
「コウモリたちのお仕事」
「多様性が減ると…」

昭和３２年生まれ　　阿蘇郡西原村在住
現　　　在　　九州両生爬虫類研究会　事務局長
　　　　　　　ビオトープ管理士（計画1級、施工1級）
　　　　　　　熊本県希少野生生物検討委員
　　　　　　　環境カウンセラー（環境省）、博士（理学）
　　　　　　　河川水辺の国勢調査アドバイザー（国交省）

専門は、小型サンショウウオ類の分類・生態。両生類と哺乳類の調査・研究を長年おこなっている。大事にしたいことはそれぞれの地域の生物多様性と特性。今もっとも力を入れているのは小学生や幼児の環境学習。

動物（哺乳類）

さか　た　たく　じ
No.28 坂田拓司

〈講演会・学習会テーマ例〉
「くまもとの哺乳類の今」
「すごいぞ！コウモリ」
「絶滅危惧のカモシカをどう守る？」

昭和３３年生まれ　　熊本市在住
公立高等学校生物教師
現　　在　　熊本市立必由館高校非常勤講師（生物）
熊本県希少野生生物検討委員（哺乳類）
熊本野生生物研究会会長
日本生態学会会員
日本哺乳類学会会員

「熊本県における野生哺乳類の住民登録」がライフワークです。
豊富な調査研究活動と生物教師としてのノウハウを生かし、環境学習のお手伝いをします。

動物（鳥類）

さか　なし　まさ　ひこ
No.29 坂梨仁彦

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の野鳥」
「里山の自然観察」
「鳥たちの超能力」

昭和３１年生まれ　　熊本市在住
現　　在　　熊本県希少野生生物検討委員
日本鳥学会会員

県内各地での野鳥観察会を指導するなど経験も豊富。

動物（貝類）

まつ　もと　たつ　や
No.30 松本達也

〈講演会・学習会テーマ例〉
「貝類から見た動物多様性」
「陸貝から見た環境指標（自然度）」
「熊本県内における外来種（貝類）の現状と生態系への影響」

昭和３１年生まれ　　熊本市在住
昭和５４年～５６年　　深海貝類の調査研究（東海大学）
平成１５年　　オフィスまいまい（貝類研究所）を設立
現　　在　　日本貝類学会会員
熊本県希少野生動植物検討委員会調査員

貝類の調査研究を行っており、熊本県博物館ネットワークセンターの収蔵標本の同定、登録を行っている。
普及啓発活動も行っており、熊本県博物館ネットワークセンターの「貝のふしぎ展」の企画監修や、観察会の講師を務めている。

動物（水生生物）

たか　まつ　やす　くに
No.31 高松安国

〈講演会・学習会テーマ例〉
「川の生き物たち」
「川の環境指標動物」

昭和３０年生まれ　　熊本市在住
現　　在　　熊本生物研究所　研究員

熊本県内河川における水生生物の研究。河川における生物相の研究。

動物（陸・淡水産貝類）

No.32 西野　宏（にしの　ひろし）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の陸・淡水産貝類」
「自然の中の化学物質（毒成分を中心として）」など

昭和３０年生まれ　熊本市在住
現　　在　理学博士（東北大学）
熊本大学大学院先端科学研究部名誉教授
日本化学会会員、有機合成化学協会会員
熊本県希少野生生物検討委員会副会長（陸・淡水産貝類班）
天草市環境審議会会長
日本貝類学会会員、九州貝類談話会会員
くまもと化学・生物研究所代表

専門は有機化学。天然に広く存在する複素環化合物の合成および反応、特に生物活性物質に興味がある。また、陸・淡水産貝類の分類・生態調査も行なっている。主な著書（共著）に「大学生これから学ぶ化学」（2023，培風館）、「レッドリストくまもと2024」など。
https://researchmap.jp/read0173178

動物（海洋生物）

No.33 堤　裕昭（つつみ　ひろあき）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有明海生態系の異変とその原因」
「干潟生態系のしくみ」
「沿岸漁業の問題点と対策」
「マイクロバブルによる曝気技術の水産養殖への利用」
「酸素マイクロバブル利用による農産物生産性の向上」

昭和３１年生まれ　熊本市在住
昭和６２年　熊本県立女子大学助教授
平成　４年　熊本県立大学生活科学部助教授
平成１１年　熊本県立大学環境共生学部教授
平成３０年　熊本県立大学副学長
令和４年　熊本県立大学学長

専門は、海洋生態学、沿岸環境学。研究課題は有明海の生態系、アサリの生態と漁業、イトゴカイの生態、水産増養殖環境、有機汚泥浄化、マイクロバブルなど。

動物（海洋生物）

No.34 森　敬介（もり　けいすけ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「海の生きもの：有明海、八代海、天草の生物多様性」
「沿岸生態系の保全再生」
「水銀の話：水俣湾の生きものを中心に」

昭和３２年生まれ　宇土市在住
現　　在　ひのくにベントス研究所　所長
熊本県希少野生動植物検討委員会委員

ベントス（底生無脊椎動物）全般を対象として日本各地の沿岸域の様々な生態系（岩礁、転石、干潟、塩性湿地、浅海域）で生物群集の生態学的研究を行っている。
熊本県のレッドデータブック（海洋動物）作成を担当すると共に、熊本県における希少生物の保護や沿岸環境保全活動を行っている。主要著書に「干潟ベントスフィールド図鑑」、「フジツボ類の最新学」、「レッドデータブックくまもとシリーズ」などがある。

動物（生態・水産・保全）

No.35 山田勝雅（やまだ　かつまさ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「藻場・干潟・海草場の生物多様性：保全と水産」
「生物多様性をなぜ守らないといけないのか？」
「沿岸生物の観察会」

合志市在住
平成２２年　千葉県水産総合研究センター　研究員
平成２３年　（国研）国立環境研究所　特別研究員
平成２５年　（国研）水産研究・教育機構　西海区水産研究所　研究員
現　　在　熊本大学　くまもと水循環・減災研究教育センター　准助教

専門：沿岸生態学、多様性科学、水産科学。干潟・藻場・海草場や河口などの人間にとってなじみ深い沿岸域に生息する生物種（魚介類や甲殻類）や生態系に関する研究を行っている。自然・環境から享受できる水産物などの恩恵と、人間社会とのより良い共生関係に新しい視点をもたらすことを目指している。

動物（昆虫）

てら さき あき のり
No.36 寺 﨑 昭 典

〈講演会・学習会テーマ例〉
「昆虫教室」
「生物多様性」
「昆虫の不思議」

昭和２３年生まれ　熊本市在住
現　在　合同会社　フィールドリサーチ代表
河川・水辺の国勢調査アドバイザー
熊本県希少野生動植物検討委員（昆虫班代表）
阿蘇立野ダムモニタリング部会委員

専門は蝶類・トンボ類の生態・分類。熊本県のレッドデータブック（昆虫）に関する調査・作成。

自然観察その他（きのこ）

すず き とし お
No.37 鈴 木 敏 雄

〈講演会・学習会テーマ例〉
「きのこ観察会」
「きのこの形態と生態」
「きのこの役割と働き」
「食用・薬用・毒きのこ」

昭和２２年生まれ　合志市在住
現　在　熊本きのこ会　顧問

きのこ好きの集まり、熊本きのこ会の仲間と、熊本県内を中心に、きのこを調べている。不思議な形をしたもの、美しい色を持ったもの、いい匂いがするもの、飛び上るほど辛いものなど様々であり、今日はどんなきのこに出会えるのだろうかと心躍らせて森や林へ出かけている。

自然観察その他（水生生物観察・水環境）

こ ばやし おさむ
No.38 小 林 修

〈講演会・学習会テーマ例〉
「校庭内のビオトープ構築」
「感性を身につける手法」
「県内の生きものの生態調査とその対策」

昭和２２年生まれ　合志市在住
平成　５年　くまもと環境賞受賞（個人）
平成　７年　熊本県河川愛護功労賞受賞（団体）
平成１１年　地域環境保全功労者受賞（環境庁長官表彰）
現　在　国土交通省河川アドバイザー
環境省環境カウンセラー
熊本県自然観察研究会代表
熊本県自然ふれあい指導員
環境教育アドバイザー
NHK総合ラジオレポーター
熊本県ほたる研究会会長（生態・分壌）
熊本市乳幼児パパ・ママ教室講師　他

環境調査や自然観察、講演会の講師として県内各地で活躍している。環境教育アドバイザーとして、学校からの依頼を受け、小中学生への環境教育を行っている。

自然観察その他（自然観察全般）

お だ ふみ ひろ
No.39 小 田 文 弘

〈講演会・学習会テーマ例〉
「宇土半島の自然と生物」
「生物と自然環境」
「野外で生物を観察しよう」など

昭和３０年生まれ　宇土市在住
平成　２年　NHK学園「自然観察講座」講師
平成　３年　YMCA学院環境教育学科担当
現　在　元自然観察指導員熊本県連絡会会長

NHK「くまもと博物誌」KKT「熊本の自然点検」などに出演。山から川、海までの生態系の保全を訴えて、環境教育指導、自然観察会など幅広く自然保護教育活動を行っている。グリーンアドバイザー。

自然観察その他（自然観察全般）

No.40 中田裕一（なかた ゆういち）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「里山の自然観察」
「川の水環境を調べよう」

昭和３８年生まれ　　八代郡氷川町在住
現　　在　宇城市立不知火小学校教諭
　　　　　自然観察指導員熊本県連絡会副会長
　　　　　森林インストラクター（全国、熊本県）

身近な森林の植物観察や河川の水生生物調査、体験林業の指導員として活動している。特に、子どもたちの環境教育に力を入れている。（緑の少年団、子ども会活動）

自然観察その他（自然観察全般）

No.41 藤吉勇治（ふじよし ゆうじ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「里山の自然」

昭和２９年生まれ　　上益城郡山都町在住
現　　在　矢部郷自然観察会会長
　　　　　熊本県自然保護関係団体協議会会長

地域の身近な自然をもっと良く知ることを目的に矢部郷自然観察会を発足させ、特に子どもたちの自然観察や環境教育に力を入れている。

自然観察その他（草原での自然観察と学習）

No.42 木部直美（きべ なおみ）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の草原で見られる植物や動物について」
「草原と人々の営みとの関係について」
「子どもたちの草原環境学習の実践例や進め方について」

昭和４３年生まれ　　阿蘇市在住
平成２０年　　アメリカのエバーグレーズ国立公園でインターン
平成２１年～２５年　　環境省アクティブレンジャーとして阿蘇で勤務
平成２５年～２７年　　（一財）自然公園財団阿蘇支部「自然ふれあい担当」
平成２７年～令和６年　　（公財）阿蘇グリーンストック「環境学習担当」
令和６年～　　阿蘇の草原を案内するガイド

阿蘇の草原を未来に引き継いでいくため、地域の子どもたちや来訪者を対象に草原について伝える活動を展開中。阿蘇の草原を紹介する出前講座や草原での自然観察会を行っている。

自然観察その他（阿蘇の草原学習）

No.43 市原啓吉（いちはら けいきち）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の草原について学ぼう」
「体験野焼きを学ぼう」
「阿蘇の草原キッズになろう（春編／秋編）

昭和２５年生まれ　　阿蘇市在住
昭和４５年　派遣農業研修生として渡米
昭和４７年　帰国後農業に従事
平成１２年～　阿蘇市一の宮町町古閑牧野組合組合長
平成２１年～　阿蘇市生涯学習講座講師
現在に至る

平成12年より地元小中学校、高校等の草原学習や体験の場として取り組み、全国各地より訪れる小、中、高校生の修学旅行生の希望に応じ、草原学習や作業体験、牛馬の触れ合い体験や自然観察に取り組む。平成21年からは「草原を歩いて阿蘇の宝を見つけよう」講座の講師として勤務。

自然観察その他
（里地・里山の自然体験）

こう　やま　まさ　お
No.44 幸 山 昌 生

〈講演会・学習会テーマ例〉
「自然とふれあう子育て～幼少期の自然体験～」
「野外保育指導者養成講座」
「日本とドイツの森のようちえん」

昭和３５年生まれ　　八代市在住
現　　　在　　九州森のようちえんのつどい代表
　　　　　　　森林インストラクター
　　　　　　　ネイチャーゲームインストラクター
　　　　　　　シェアリングネイチャーウェルネスガイド

幼児の豊かな感性を育む「森のようちえん」、子どもから大人まで誰もが五感を使って自然とふれあい、わかちあう「ネイチャーゲーム」。このような活動を通して自然と人とのつながりを指導している。

自然観察その他
（シェアリングネイチャー）

ふく　もと　じゅ　た　ろう
No.45 福 本 壽 太 郎

〈講演会・学習会テーマ例〉
「シェアリングネイチャー活動」
「森林の働き」
「森林セラピー活動」

昭和２９年生まれ　　球磨郡あさぎり町在住
現　　　在　　熊本県シェアリングネイチャー協会理事長
　　　　　　　熊本県森林インストラクター
　　　　　　　森林セラピスト・ガイド
　　　　　　　熊本県自然ふれあい指導員

自然とふれあう楽しさを感じ、自然から学ぶ喜びを知り、子供から高齢者まで、「シェアリングネイチャー」のアクティビティを通じて、心豊かな社会作りに貢献している。
草本、動物、鳥、虫、水、星、自然の循環するフローの中で、自然の素晴らしさをわかちあう活動を指導している。

自然観察その他
（天体観測）

はし　もと　けん　じ
No.46 橋 本 建 司

〈講演会・学習会テーマ例〉
「四季の星空について」
「四季の天体観察」

昭和３８年生まれ　　八代市在住
元さかもと八竜天文台　館長

星の世界を「やさしく」「わかりやすく」「丁寧に」をモットーに活動。出張授業や観察会のお手伝いをいたします。

自然観察その他
（天体観測）

あさ　だ　こう　じ
No.47 浅 田 晃 司

〈講演会・学習会テーマ例〉
「夜空の星々を観察してみよう」
「宇宙の謎を解こう」
「宇宙のロマンを楽しもう」

現　　　在　　さかもと八竜天文台　台長

星の世界を身近に感じていただけるように楽しく分かりやすくお話しさせていただきます。
夜空に広がる美しい星の世界を一緒に楽しみましょう。

自然観察その他（天体観測とプラネタリウム）

No.48 稲葉洋一（いなば よういち）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「移動式プラネタリウムによる星と星座のお話」
「光学機器や天体望遠鏡を用いた星のお話」
「光学機器や望遠鏡の扱い方」

昭和４２年生まれ	八代市在住
平成元年	ゲームメーカーで企画職
平成１０年	中学校講師
平成２１年	県埋蔵文化財調査員
平成２９年～令和５年	さかもと八竜天文台　台長

空気で膨らませるエアドームの中で寝っ転がり、星座や星の動きを楽しめるプラネタリウムを出前します。街の明かりが星空に与える光害も学べます。
天体観測では複数同時に楽しめるように各種光学機器を揃えています。

自然観察その他（天体観測とプラネタリウム）

No.49 吉田光一郎（よしだ こういちろう）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「天体観察会」
「移動プラネタリウム」
「星空写真教室」

昭和４７年生まれ	熊本市在住
平成９年～平成１７年	化学メーカーにて研究職
現　　在	ＨＯＹＡ(株)に技術職として勤務
	LithOpt Labo代表(星空ガイド、プラネタリウム等)

わかりやすく、時にはマニアックに、季節や場所、お話しを聴く人に合わせた内容で、私自身が子供の頃から大好きな星のお話をお伝えしたいと思います。
晴れれば望遠鏡や双眼鏡で、昼間や天気の悪いときにはエアードーム内で全天投影する移動プラネタリウムで、いつでもどこでも星のお話をさせていただきます。

講師が現地に出張します！

出前講座

要予約
1ヵ月半～2ヵ月ほど前までに
一度ご相談ください

様々な講座をご用意しています。
内容については、お電話でご相談ください。

動く環境教室

環境センターの職員がご希望のテーマに応じた環境学習を行います。

UVビーズストラップ

リ・グラスアート

無料

★主なメニュー
- 環境講話（水・ごみ・地球温暖化）
- ものづくりと環境学習
  （リ・グラスアート、UVビーズストラップ等）
- 川や海の生きもの観察
- ネイチャーゲーム

エコロジスト・リーダー派遣

環境センター主催講座を修了した方々が体験学習や伝統文化の体験の場を提供します。

エコクッキング

竹箸づくり

★主なメニュー

要材料費

- 体験学習
  （食育エコクッキング、里地・里山体験、リ・グラスアート等）
- 自然の素材を生かしたものづくりや伝統文化の体験　（竹箸づくり、箸袋作り等）

環境教育指導者派遣

大学教授や各分野の専門家による環境学習を行います。

講演（貝と生活）

自然観察（ほたる）

★主なメニュー

無料

- 講演会・学習会
  （環境保全、自然環境、消費者教育、動植物など各種講演）
- 自然観察会
  （動植物、昆虫、きのこなど）

「出前講座」の予約手順

対象　熊本県内の学校、公民館、PTA、自治体、企業、市町村などの団体

動く環境教室

1. **電話予約** — 事前に日程を電話で押さえます
2. **申込書提出** — 様式をHPよりダウンロードし、FAX等で送付
3. **派遣決定通知** — 派遣決定通知書が届きます
4. **電話打合せ** — 実施内容を電話で打ち合わせます
5. **環境学習実施**

エコロジスト・リーダー、環境教育指導者派遣

1. **電話で相談** — 事前に講師との日程調整をします
2. **電話打合せ** — 実施内容の打ち合わせをします
3. **申込書提出** — 内容が決定したら、申込書を郵送します
4. **派遣決定通知** — 派遣決定通知書が届きます
5. **環境学習実施** — 環境学習を実施します
6. **報告書提出** — 学習の実施報告書を郵送します

熊本県環境センター

●入場無料

〒867-0055　熊本県水俣市明神町55番1号

TEL 0966-62-2000㈹

利用のご案内

団体での施設利用は事前の申し込みが必要です。

ー開館時間ー

午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

ー休館日ー

毎週月曜日（月曜日が祝日、休日の場合はその翌日）

年末年始（12月29日～1月3日）その他臨時休館日

【E-mail】kankyo-center@dance.ocn.ne.jp

【HP】https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/50/

【SNS】

発 行 者：熊本県
所　　属：環境センター
発行年度：令和8年度